

アウトライン項目と主要なみ言葉

信仰を守る:	Ⅱテモテ 4:7 わたしは良い戦いを戦い抜き、行程を走り終え、 その信仰を守り通しました。
信仰のため戦う:	Ⅰテモテ 6:12 その信仰の良い戦いを戦いなさい。 永遠の命を保持しなさい。あなたはすでに永遠の命へと召され、多くの証人の前で良い告白を表明したのです。
神のエコノミーのため:	Ⅰテモテ 1:4……そのようなものは、 信仰の中にある神のエコノミー [経綸] ではなく、むしろ論議を引き起こすだけです。
純粋な良心をもって:	Ⅰテモテ 3:9 純粋な良心をもって 、その信仰の奥義を保っていません。
力を尽くして戦い:	ユダ3 ……わたしたちの 共通の救い について、あなたがたに手紙を書き送ろうとしていた時、聖徒たちに一度限り伝えられたその信仰のために 力を尽くして戦うようにと…
その信仰の一:	エペソ 4:13 ついにわたしたちすべては、 その信仰の一に 、また神の御子を知る全き知識の一に 到達し

その信仰を守る			
信仰	意義、内容	Ⅰ	主観的、客観的面の 意義
		Ⅱ	神の新約のエコノミー 内容
守る	如何に信仰を守るか	Ⅲ	信仰の良い戦いを戦うことによって
		Ⅳ	永遠の命を保持することによって
	四つの面との関係がある 1) 神のエコノミー 2) 全体的(完全)な福音 3) 共通の救い 4) 信仰の一	Ⅴ	信仰の中にある神のエコノミーのため
		Ⅵ	純粋な良心をもって守り
		Ⅶ	信仰のために力を尽くして戦い
		Ⅷ	みな、その信仰の一に到達する

メッセージ 3

その信仰を守る

聖書：Ⅱテモテ 4:7 後。 Ⅰテモテ 1:19。 3:9。 4:1。 6:12。 Ⅰテサロニケ 3:2。 ユダ 3 節

Ⅰ、Ⅱ その信仰(意義、内容)

信仰は客観的であり、また主観的です	
●客観的信仰 (中文—信仰)	エペソ 4:13 ついにわたしたちすべては、 その信仰の一に 、また神の御子を知る全き知識の一に 到達し 、Ⅱ テモテ 4:7 その信仰を守り通しました。 客観的な信仰は、わたしたちの信じる対象、また信じているものを指しています。
●主観的信仰 中へ信じ入ること (中文—信入)	ヨハネ 3:15 それは、彼の中へと信じる者がすべて、永遠の命を持つためである。 ヨハネ 3:16 神はそのひとり子を賜ったほどに、世の人を愛された。それは、彼の中へと信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を持つためである。 主観的な信仰は、わたしたちの信じる行為と関係があります
●信者の信仰 (両面) (中文—信心)	Ⅰテサ 3:02 あなたがたの信仰のために、あなたがたを堅固にし、励まして、 この信仰は、主観的な、聖徒たちが信じるだけでなく、客観的なわたしたちが信じている事物も指しています

主観的、客観的面の意義

Ⅰ. 新約において、信仰は客観的であり、また主観的です:

*客観的な信仰

A. 客観的な信仰は、わたしたちの信じる対象、すなわち、わたしたちが信じているものを指しています。この客観的な信仰は、神の新約エコノミーの内容を含みます——エペソ 4:13. II テモテ 4:7 後:

1. エペソ第4章13節における「その信仰」は、信じる行為としての信仰ではなく、客観的な信仰です。
2. 客観的な信仰の項目は、わたしたちの救いに関する項目だけです。言い換えれば、キリストのパーソンと働きに関する項目だけです——ヨハネ 3:16. 1:18. I ヨハネ 4:9.

*主観的な「中へと信じる」こと——信じる行為

B. 主観的な信仰は、わたしたちの信じる行為と関係があります——ヨハネ 3:15-16:

1. この意味によれば、主にある信仰を持つことは主を信じることです。
2. キリストにあるすべての真の信者は、キリストに関する信仰を持つことにおいて一です。

*聖徒たちの信仰(客観的と主観的の両方の面を指す)

C. I テサロニケ第3章2節で信仰は、聖徒たちが信じること(主観的な信仰)を指すだけでなく(5、6、10節にあるように)、わたしたちが信じているもの(客観的な信仰)も指しています(I テモテ第3章9節、第4章1節、II テモテ第4章7節にあるように):

1. 信仰のこれら二つの面は、互いに関係があります。
2. わたしたちが信じること(主観的な信仰)は、わたしたちが信じているもの(客観的な信仰)から出ており、わたしたちが信じているもの(客観的な信仰)の中にあります。

神の新約エコノミーの内容

II. 「わたしは……その信仰を守り通しました」——II テモテ 4:7 後:

- A. ここの「その信仰」は客観的です。
- B. この節の「信仰」という言葉は、わたしたちがキリストを信じて、彼のパーソンと贖いの働きをわたしたちの信仰の対象とすることを暗示しています——I テモテ 1:19. ガラテヤ 1:23.
- C. その信仰を守るとは、神の新約エコノミー全体を守ることです。その信仰は、神の具体化、また神の奥義としてのキリストと、キリストのからだ、またキリストの奥義としての召会とに関するものです——I テモテ 1:4.

Ⅲ、Ⅳ 如何にその信仰を守るか

その信仰の良い戦いを戦うことによって(その信仰を守る)

Ⅲ. I テモテ第6章12節前半は言います、「その信仰の良い戦いを戦いなさい」:

*信仰のためにつたくことは、神の新約エコノミーのために戦うことであり、

- A. その信仰のために戦うことは、神の新約エコノミーのために戦うことを意味します。

*神の新約エコノミーにしたがって完全な福音のために戦うことです。

- B. その信仰の良い戦いを戦うことは、神の新約エコノミーにしたがった完全な福音の内容のために戦うことです——エペソ 1:9-10. I テモテ 1:4.

*しかし召会が墮落し、信仰からそれたので、

- C. 異なる教えのゆえに、召会はすでに墮落しており、その信仰からそれていました——I テモテ 1:3.

*パウロはテモテに、その信仰の良い戦いを戦うようにと命じました。

- D. パウロはテモテに、その信仰からそれていくことに対して戦うように、すなわち、その信仰の良い戦いを戦うように命じました——6:12 前半.

永遠の命を保持することによって(その信仰を守る)

IV. I テモテ第 6 章 12 節後半で、パウロは続けて言っています、「永遠の命を保持しなさい。あなたはすでに永遠の命へと召され……たのです」:

*信仰を守るために、永遠の命を保持する必要がある、人の命に信頼してはいけません。

A. わたしたちは、クリスチャン生活においてその信仰の良い戦いを戦うために、この命（永遠の命、神聖な命）を保持する必要がある、人の命に信頼してはなりません—— I テモテ 6:12 後半。

*そして、永遠の命を保持することで、(客観的、主観的に)その信仰の良い戦いを戦います。

B. わたしたちは永遠の命を保持することによって、客観的にだけでなく、また主観的にその信仰の良い戦いを戦います——12 節後半。

C. わたしたちは永遠の命を保持する必要があります。そうすれば、わたしたちはその信仰の良い戦いを戦うことができます——12 節。

信仰の中にある神のエコノミーのため——その信仰を守る

V. 正常なクリスチャン生活は、その信仰を守って、**神のエコノミー**における神聖な豊富にあずかることです—— I テモテ 1:19, 3:9, 4:1, 6:12, テトス 1:4, ユダ 3 節:

*信仰の中にある神のエコノミーとは——信仰の範囲と領域の中で開始され発展する事柄であり、

A. 神のエコノミーは信仰の中にある事柄、すなわち、信仰の範囲と要素の中で開始し発展する事柄です—— I テモテ 1:4。

*それは神ご自身をわたしたちの中へと分与するという、新創造の霊的領域の事柄です。

B. 神のエコノミーは、ご自身を彼の選ばれた人の中へと分与することであり、天然の領域や律法の働きの中の事柄ではなく、キリストにある信仰による再生を通しての、新創造の霊的な領域の中の事柄です—— II コリント 5:17, ガラテヤ 3:23-26。

*この新約エコノミーにしたがって、信仰の中で神の御計画—再生され、神の子たちとなり、神の命と性質にあずかり、神を表現する—を遂行します

C. 信仰によって、わたしたちは神から生まれて神の子たちとなり、神の命と性質にあずかって神を表現します——ヨハネ 1:12-13:

1. 信仰によって、わたしたちはキリストの中へと入れられてからだの肢体となり、彼であるすべてにあずかって彼の表現となります——ローマ 12:4-5。

2. これは、神の新約エコノミーにしたがって信仰の中で遂行される神のご計画です。

純粋な良心をもってその信仰を守る (その信仰は**全体的な福音**を指しています)

VI. わたしたちは純粋な良心をもって、その信仰の奥義を保っている必要があります—— I テモテ 3:9:

A. その信仰は、わたしたちが信じているもの、すなわち福音を構成するものを指しています——ローマ 1:1, 3-4。

B. その信仰の奥義はおもに、神の奥義としてのキリストと、キリストの奥義としての召会です——コロサイ 2:2, エペソ 3:4。

C. その信仰の奥義を保っているために、わたしたちは純粋な良心、すなわち、いかなる混合からもきよめられた良心を持たなければなりません—— I テモテ 3:9, 1:19。

信仰のために力を尽くして戦い、

VII. ユダは彼の手紙で言います、「わたしは……聖徒たちに一度限り伝えられたその**信仰のために力を尽**

くして戦うようにと、手紙を書いて勧める必要を感じました」——ユダ 3 節後半:

***客観的信仰—キリストご自身**

- A. この節の「その信仰」は、主観的なものではなく、客観的なものです。
- B. ここの「信仰」という言葉は、わたしたちが信じることを指しているのではなく、わたしたちの信仰、すなわち、**わたしたちが信じているものを指しています。**

***共通の救い**

- C. ユダ 3 節のその信仰は、わたしたちの信仰としての新約の内容を示しており、わたしたちは信じて、わたしたちの**共通の救い**を得ます——使徒 6:7. I テモテ 1:19. 3:9. 4:1. 5:8. 6:10, 21. II テモテ 3:8. 4:7. テトス 1:13。

***この信仰(いかなる教理ではない)は、一度限りで永遠に聖徒たち与えられたので、わたしたちはこの信仰のために力を尽くして戦うべきです**

- D. この信仰は、いかなる教理でもなく、**聖徒たちに一度限り伝えられました。**
- E. この信仰のために、わたしたちは戦うべきです—— I テモテ 6:12。

みな、その信仰の一に到達する

VIII. わたしたちはみな、「その信仰の一に……到達」する必要があります——エペソ 4:13 前半:

***信仰の一は、**

- A. この句で述べられているその信仰は、客観的な信仰です。
- B. その信仰の一は、わたしたちが神の御子を知る全き知識にかかっています——13 節。

***神の御子に対する完全な認識にかかっています。**

- C. わたしたちはキリストを中心とし、彼に集中するときはじめて、その**信仰の一**に到達することができます。

まとめ

客観的信仰が主観的な信仰（信じること）となり、
純粋な良心をもって信仰の奥義を供給し、
あの一度限りで永遠に与えられた信仰を宣べ伝え
信仰の一に到達するように成就される必要があります。